

☆☆表面より続きです☆☆

そして迎えた3度目のパラリンピック、トリノ大会。競技中、考えられないアクシデントが起こった。バランスを崩して転倒してしまっただけ。片手なのですぐに起き上がれなかった。大敗だった。

トリノから自宅に戻った新田さん、家にひきこもってしまった。

家にはおじいちゃんやいた。自分の運動するコンパインで、可愛い孫が片腕を失った。事故直後、息子であり、新田選手のパール・茂さんにおじいちゃんはどう言った。「この子と一緒にわしは死ぬ」

その後もずっとおじいちゃんを自分と責め続けてきた。そのことをいつしか新田さんも気づくようになった。

家の中にいるおじいちゃんを見て、目的を見失っていたことに気付いた。目標はいつも「金メダル」だった。しかし、何のためか金メダルなのか忘れていた。

以前、金メダルを取っておじいちゃんに掛けてあげて、「おじいちゃんに俺にとつて最高のおじいちゃんだよ」と言っておあげるこ

とが夢だったことを思い出した。「目標は金メダル、目的はおじいちゃんのために」を胸に、新田選手は4度目のパラリンピック、バンクーバー大会に挑んだ。

そして、10キコースと1キコースで、2個の金メダルを獲得し、凱旋した。実家に戻った新田選手は、92歳になったおじいちゃん

の首に2個の金メダルを掛けた。何かに挑戦しようとするとき、「誰かのために」という目的があると、人は諦めない。すこい力を発揮する。きつとそれが愛の力だからだろう。(おわり)

いかがでしょうか。「子どもの目を輝かせるためには、教育者や親たちがまず興味を持ち、感動してください。」とあります。この「ひらほく新聞」も「みや中新聞」に出会ってからは、内容が現在のようになってきました。まずは私たち大人がたくさんの感動悲話に触れ、好奇心旺盛な豊かな感性を持ち、それをワクワク伝えられる感動人間になること。子どもたちの未来へ、その思いをぜひ恩送りしていきましょ。

◎みやざき中央新聞は、いろんな講演会を取材して、面白かった話、感動した話、心温まった話、為になった話を、講師の先生の許可をいただいて、掲載している新聞です。全国どこからでも購読できます。

・発行日 毎週月曜日・月4回発行
・購読料 1ヶ月1000円(送料込)
・お支払い方法 口座引落

クレジットカード決済
・お申し込み他、詳細はサイトにて
<http://miya-chu.jp/>

☆☆「ひらほく読者」限定お知らせ☆☆
この度、「みやざき中央新聞」様から、見本紙をたくさん送っていただきました。ご希望の方にプレゼントします！お電話、FAX、メールにて、お気軽にお申し込みください！

毎日届く ハッピーニュース 新聞は気づき 教への宝庫

日本新聞協会は「新聞をヨム日」の4月6日、新聞で読者が見つけた、ハッピーな気持ちになったり新たな気づきを得た記事とその理由を募集した「ハッピーニュース2014」の結果を発表。大賞は、鹿児島県の古垣ひとみさん(41)が受賞。

古垣さんがコメントを寄せたのは、高校生がアルバイト先で整頓されている作業車を見て「こんな会社で働きたい」と問い合わせたところ、社長の心を動かし採用されたという南日本新聞の記事。

「時間がなくいつもはさつと通してしまいうような小さな記事でしたが、この日の『整頓されているから』という記事はなぜかさつと目に入ってきました。」誰がどこを見て評価しているか分からない、この話を読んだ後、自分はどうかだろうかと考えさせられました。どんなに立派なことを言っている

でも、普段の行動を他の人が見たときに、どう思われるかなど改めて思いました。「と素直に感心した思いの表現が評価された。」

記事の舞台は鹿児島・鹿屋市にある宇都電設。宇都電設では即戦力となる経験者のみを採用、高卒・新卒の募集をしていなか

ったが、宇都健三郎社長は2人の社員から高卒の新入社員は採らないのかと聞かれて疑問に思い、聞いたところ2人ともガソリンスタンドでアルバイトとして働く高校3年の男子生徒から聞かれたとのこと。そして社長は軽い気持ちで会ってみることを決断し、面接した。

高校生の隈本真志さんはガソリンスタンドでバイトをしていて、宇都電設の作業車はいつも綺麗で車内の道具類も整理整頓が行き届いていることから、仕事も丁寧で質も高いと思つて入社を希望。

この会社では十数年前に業績が低迷し、社員も挨拶を交わさないなど職場の雰囲気

が乱れていたが、そんな時に宇都社長は社員同士の挨拶を考案し、喜ばれる仕事をしたことなどで会社は改善。今では道具類も常に整頓され、業績も良好となっている。

宇都社長は面接で十数年かけて取り組んできた事に隈本さんが気づいてくれていることに深く感銘。更に隈本さん自身は母子家庭で、女手一つで育ててくれた母親も更年期障害を患っていることから、高校卒業後はどうしても地元での就職を希望。

社長は新卒を採用しないという慣例を取り払い、隈本さんのために採用試験を実施。志望理由を聞き、「こういう子が会社に必要だと思つた。仕事振りは不器用だが、それ故にひとつひとつ丁寧なやつてくれると期待している」と感じたという。

隈本さんは無事に内定し、入社一カ月前に母親とともに会社に招待された。社長は隈本さんが弊社を希望したのは母親を置いていくわけにはいかないという理由からと隈本さんの母親に明かし、南日本新聞社の知り合いにこの話を紹介。今回のハッピーニュース大賞誕生につながった。

に述べられている。「新聞が発信する一番大きな情報は、実は見出しとレイアウトにあると思う。新聞は見出しの大きさを、ニュースの社会的な価値を視覚ではっきりと脳に伝えている。小学2年生の時、三島由紀夫が自決した。社会的な意味など全く分からなかった。しかし、一面の見出しの大きさを、ものすごい事件が起きたことは分かった。「浅間山荘事件」「ロッキード事件」なども当時の新聞紙面が頭に浮かぶ。ニュースの重みが、視覚的に頭の中にファイルされている。時代の記録において新聞紙面に勝る物はない。」

大切なのは、そのニュースが社会でどのように受けとめられるものなのか、その「相場」を知ることだ。価値基準を確立しないまま、自分の知りたいことだけをネットを検索し、うのみにするのは危ない。脳科学を研究する立場からすると、新聞を読むことは、自分で情報を選択する能力を鍛えることにつながると思う。ネットが普及した今こそ、世間の常識や、ニュースの社会的な意味付けを把握できる新聞の役割は高まっている。」

最近、メールではなく、手紙を書きましたか？携帯電話の無かった、わずかこの二十年程前、人と約束して直に会うというこ

とはとても貴重であり、大変なことでした。日本が古くから培ってきた独自の活字文化、人と相対して接することで生まれる思いやりの和の心。その大切な日本文化が、スマホ依存症によるネット環境により、大きく失われつつあります。

この春、信州大学の山沢清人学長の入学式挨拶が話題になりました。「スマホ依存症は知性、個性、独創性にとって毒以外の何物でもありません。スマホの「見慣れた世界」にいますと、脳の取り込み情報は低下し、時間が速く過ぎ去ってしま

います。「スマホやめませんか、それとも信大生やめませんか」

スイッチを切つて、本を読みましょ。友達と話をしましょ。そして、自分で考えることを習慣づけましょ。自分の持つ知識を総動員して、ものごとを根本から考

え、全力で行動することが、独創性豊かな信大生を育てます。」

日本の未来を担う子どもたち、若者たちにこそ、新聞や読書による活字文化に、あらためてしっかりと触れていってほしいと切に願います。

4月のある朝、起きて顔を洗おうと鏡を見ると、右眼の白眼の半分以上が真っ赤に！充血というより、出血という感じ。ぶつけたとかいう覚えはないし、なんだろうと変な心配がふつふつと...

以前、知人がある日突然、網膜剥離になり緊急手術に、ということがあった。あれこれ悩むより、まずは病院へ。いろんな検査の結果、外傷によるものでないので、力んだりすると割とよくあること、心配することはないとの診断。

僅か数時間ですが、いろんなことを考えさせられました。もしも片眼が失明したら、運転は出来なくなる...。そんなことまで思

つた先に、いっばいの感謝の気持ちが湧いてきました。太陽のパワーがいっぱい降りそそぐ地球、こんなにも素晴らしい日本に生まれ、五体満足、何不自由なく暮らせているこの身体、本当に有難く感じました。その翌週、身近に知る、50代の方お二人の急な訃報が入りました。心からのご冥福をお祈りし、いつ終わるか分からないからこそ、「目の前の今を全力で」と、合掌とともに、あらためて誓いました。

親友、帆足さんの超オススイベントです！
Ap 高校生夢発表会 & ロックバンドおかんライブ & 女性ボーカルユニットCanonライブ
2015年 6月14日(日) 16:30~
海老名市文化会館大ホール
一般 3,000円 高校生 2,000円
前売料金 同 2,500円 1,500円
中学生までは無料、事前申し込みを。当社でもチケット取扱。5月も前売料金でOK！
詳細情報は「Ap高校生夢発表会」で検索。本日も折込のチラシ案内を